



# もう 盲ろう

視覚と聴覚の両方に障がいがあることを「盲ろう」といいます。見え方・聞こえ方は人によって違いが大きく百人百様ですが大きく分けると、全盲・ろう、全盲・難聴、弱視・ろう、弱視・難聴の4つに分けられます。

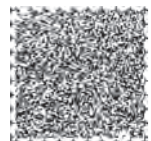
## 障がいの状態

### 「盲ろう」4つのタイプ

**全盲・ろう**…全く見えず、全く聞こえない状態 **弱視・ろう**…少し見えて、全く聞こえない状態  
**全盲・難聴**…全く見えず、少し聞こえる状態 **弱視・難聴**…少し見えて、少し聞こえる状態

「盲ろう」になる経緯も様々で、一例として次のように分けられます

- 盲ベースの盲ろう**……視覚障がいがあり、のちに聴覚障がいを発症したもの
- ろうベースの盲ろう**……聴覚障がいがあり、のちに視覚障がいを発症したもの
- 先天的盲ろう**……先天的に、あるいは乳幼児期に視覚と聴覚の障がいを発症したもの
- 成人期盲ろう**……成人期以後に視覚と聴覚の障がいを発症したもの



▲目の不自由な方のための音声コード



▲目の不自由な方のための音声コード



## 配慮

こんなサポートがうれしい!

### コミュニケーションの支援や移動の介助が必要な場合が多いです。

自分の力だけで、情報を得たり、移動したりすることに困難が伴います。また、コミュニケーションを取ることが難しいので、社会的に孤立してしまいがちです。情報入手・コミュニケーションのサポートや移動の介助があれば社会参加ができます。そのようにして社会で活躍している人もたくさんいます。

### まずは、話し掛けてみてください。

困っているような盲ろう者を見かけたら、まず、肩にそっと手を触れて話し掛けてみてください。聴力が使える人もいます。もし反応がなくて聞こえないらしいと分かった場合は、やさしく手を取って、手のひらに文字を書いてみてください。この「手書き文字」という方法でコミュニケーションを取ることができる人もいます。

### その人にあったコミュニケーション方法を見つけてください。

生活環境や視覚障がいと聴覚障がいの程度、また、その障がいの発症時期により、コミュニケーション方法が一人ひとり異なります。「手書き文字」や、相手の手話に触れて手話の形を読み取る「触手話」、盲ろう者の指を直接たたいて点字を表す「指点字」などがあります。いろいろなコミュニケーション方法を試して、その人にあったものを見つけてください。

### 周りの状況を説明することも大切です。

盲ろう者は、会話の内容だけでなく、周りの状況も分かりにくいです。「人がたくさん集まっていて、にぎやか」といったその場の状況を知ること大切で、会話の内容に追加して、伝えてください。

## 事例

例えば、こんなことがあります。

全盲ろうの状態、一人でいるときに災害が起こったら、どうしたらよいか分かりません。周りに人がいるのかが分からないため、自分から他の人に話し掛けて、その場の状況を把握することが困難です。困っていたり、孤立しているように見えたなら、安全な場所への誘導や支援者につなぐなどの配慮をお願いします。



指点字によるコミュニケーション

## 【相談&問合せ先】

### 鳥取盲ろう者友の会

※詳しくは、障がい福祉関係団体一覧(P40)又は相談機関一覧(P42)をご覧ください。



▲目の不自由な方のための音声コード